

死亡事故が多い、 公道での農機事故

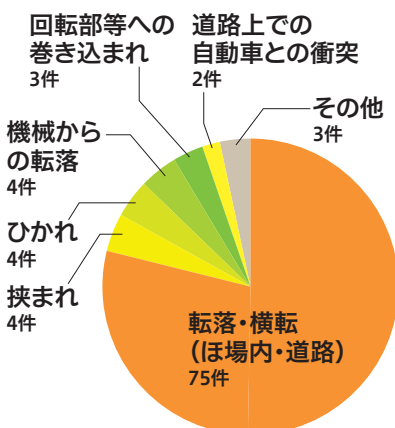


安全確認と予防対策で 農機の死亡事故を防ごう!

トラクターや運搬車などの操作ミスが転落・横転を引き起こす

農林水産省の最新の調査データによれば、農作業中の事故で亡くなる人は近年350人にも及びます。その死亡事故の発生件数は、グラフからも分かるように建設業の2倍、一般の交通事故の5倍です。特に農機の操作中に起きる死亡事故が非常に多いのは、ちょっとした不注意や事故防止対策を講

死亡事故の原因別件数(乗用型トラクター)

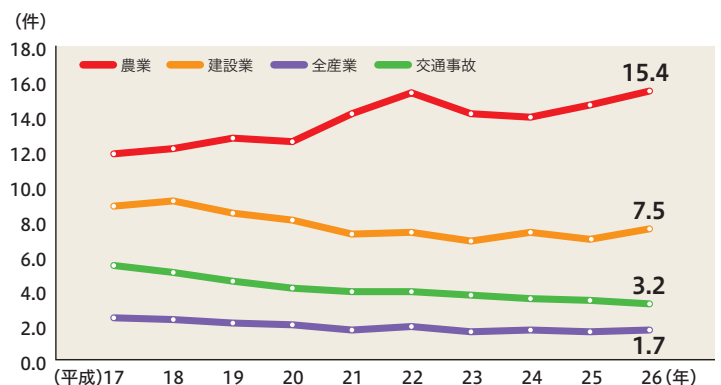


出典：農林水産省生産局より

じていなかったことが原因だと報告されています。例えば、乗用型トラクターの死亡事故原因の大半は、道路からの転落やほ場（作物を栽培する田畑）での横転によるもので、そのほかにも公道で右折時に後続車から追突される事故などがあります。

また、農業に従事される方の高齢化に伴い、

10万人当たり死亡事故件数の推移



資料：死亡事故件数と人口から算出。死亡事故件数は、上から農林水産省生産局、警察庁交通局、厚生労働省安全課調べ。人口は、農林水産省統計部「農業構造動態調査」の農業就業人口、総務省統計局調べによる総人口及び労働者数。

出典：農林水産省資料より

サイドブレーキのかけ忘れなど、うっかりミスによる事故も増えています。こうした事故を未然に防ぐためには、安全確認を十分に行うことや、公道での交通ルールを守るとともに事故の予防対策を講じることが有効です。ぜひこの機会に農機操作時の安全確認と事故予防対策を見直してみましょう。

公道での事故例から農機操作の危険なポイントを検証しよう

農機の死亡事故は、単独事故と他の車両を巻き込む追突事故等に分かれます。

ケース 1

公道における、農機操作中に不注意で起きる事故の主な原因

道路外への逸脱・坂道駐車で転落・横転

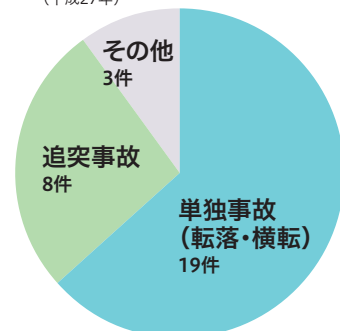
- 農機が公道から逸脱し、水田や用水路等へ転落または傾斜地に乗り上げ横転。
- 坂道に駐車をする際にサイドブレーキをかけ忘れ、横転して下敷き事故になる。

作業中による農機の重心の変化で横転

運転席が高い位置にある農機は重心が上にあり、傾斜地での微妙な操作でバランスを失いやすく、転落や横転して死亡事故になる。



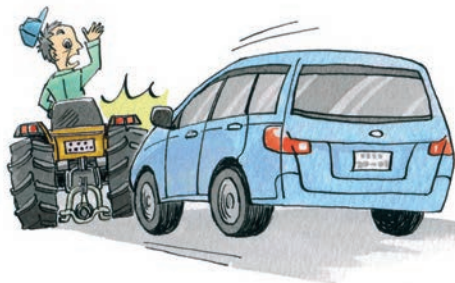
農耕車が関係する交通死亡事故の事故形態別件数
(平成27年)



出典：警察庁資料より

ケース 2

公道における、一般車両との接触・追突による死亡事故の主な原因



走行中の転落・追突事故

- 後続車を先に行かせようと、道路脇に寄りすぎた農機が公道から逸脱し転落事故になる。
- 農機に反射板を取り付けていない、取り付けていても汚れのため後続車が認識できず、追突事故になる。

農機の死亡事故防止の 対策・準備 は大丈夫?!

農機による公道での交通事故を防ぐには、予防対策が重要です。例えば、交通量の多い公道を極力避けて側道（脇道）を通り、夜間走行は控えることや道路走行前にブレーキを連結することも事故予防のひとつ。また農機は「低速車」扱いで、後続車からは走行中か停車中かの区別が付きにくく、反射板などで視認性を高める方法も有効です。さらに、シートベルトの着用と同時に、安全キャブや安全フレームを取り付けることで大事故を防げます。

対策 1

低速車マークや反射板を取り付ける

公道では、後続車にわかりやすい位置に「低速車マーク」や「反射板」を取り付けましょう。また、運転前にはマークや反射板が見やすいか、汚れていないかのチェックを忘れずに。



低速車マーク



対策 2

シートベルトの着用と安全キャブ・フレーム※の装着

- 救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう。(安全フレームは倒さずに使いましょう)
- トラクターなど農機の運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。農機の転落や横転、追突された場合に身体が投げ出されるのを防ぎます。



安全フレーム



※車種によっては取り付けられないものもあります。

対策 3

ブレーキ連結の確認

農作業前後の道路走行前に必ずブレーキを連結しましょう。ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだ時に急旋回して転落・横転する事故につながる恐れがあります。